様 式 2

公 共 事 業 再 評 価 調 書（4回目再評価）

主 管 課 ： 都市公園課

1 事業概要	事 業 名 ： 沖縄県総合運動公園整備事業		前再評価年度 ： 平成29年度
	事業種別 ： 都市公園事業	事業主体 ： 沖縄県	（S56～R2）
	事業箇所 ： 沖縄市,北中城村	根拠法令 ： 都市計画法、都市公園法	事 業 期 間 ： S56～R7
	（ 42,853） 総事業費(百万円)： 43,260	費用内訳 ： 補助1/2	事 業 量 ： 70.4ha
（整備目的）	沖縄を代表する週末型の野外レクリエーション需要に対応できる広域公園とする。また、国民体育大会の主会場としてふさわしい運動競技施設を備えた公園とする。		
1-2 前再評価以降の計画変更	・施設の再整備や改築事業が加わったことによる総事業費の変更及び事業期間の変更である。		
2 再 評 価 該当項目	□ ① 事業着手から10年を経過 □ ② 事業着手から5年以内の工事未着手 ■ ③ 再評価後一定期間（ 5年）を経過 □ ④ 事業の中止		
3 再評価に至った主な要因（具体的理由）	■ ① 用地取得等の困難 □ ② 調査・設計の困難 □ ③ 事業の拡大 □ ④ 予算の確保 ■ ⑤手続き・法令の問題 □ ⑥ 他事業との関係 □ ⑦ 整備効果の問題 □ ⑧ 当初計画の長期 □ ⑨ その他（ ） 自然観察の森箇所において、用地補償が難航していることや老朽化した施設の再整備が必要となっている。また、自転車競技場の移設撤去の方針決定に時間を要している。		

4 事 業 の 進捗状況（R4年. 3月時点）

項 目	事業費(百万円)	整 備 率(ha)	用地取得(ha)
計 画	43,260	70.4	70.4
実施済	37,725	68.2	69.7
率	87%	97%	99%

4-2 前再評価以降の主な進捗	・レクプール近くに駐車場の新規整備を行ったほか、公園南口に右左折路の整備を行った。 ・壁打ちテニスコートやバスケットコート、陸上競技場内サッカーグラウンドの再整備を行った。 ・プールボイラーや体育館の床、陸上競技場の舗装等の改修を実施した。

5 事業効果の評価指標（検討年50年）（基準年R4年）（単位：百万円）

①直接便益（旅行費用価値）	98,903	① 用地費	8,359
②間接便益	97,568	② 施設整備費	34,901
(環境:37,529、防災：60,039)		③ 維持管理費	25,044
総便益	196,471	総費用	68,304
基準年換算（B）	228,752	基準年換算（C）	160,466

費用便益比 （B／C）= 228,752 ／ 160,466 = 1.4

6 事業を巡る状況の変化（前再評価以降）	① 社会・経済 ： コロナ禍により、ここ数年、利用者が減少していたが、J2規格のサッカースタジアムやレクプールの再開、キャンプ人気等により、回復傾向にある。 ②地元・自治体 ： 特になし ③ 利害関係者 ： 供用30年を超える施設が多いことから、各競技団体からの施設修繕要望がある。
7 事業の必要性や効率性	① 事業の必要性・緊急性・有効性など ： 本公園は、各種スポーツ大会が多く開催されるとともに週末型レクリエーションを楽しむ県民が多く訪れる公園であるため、幅広い競技利用に対応できる施設整備と、既存施設の再整備や改築を引き続き行う必要がある。 ② 事業の効率性 ：(代替案等の可能性) 慢性的な駐車場不足を解消するため、駐車場の新規整備を行ったが、依然として駐車場が不足していることから、仮設自転車競技場の移設等に関して引き続き検討することが効率的と考えている。 ③ 事業効果の発現状況： 各種スポーツ大会やレクリエーション等、多くの来園者に利用されている。
8 今後の対応方針・見通し	① 事業計画等 ： 令和5年度以降、仮設自転車競技場の方針について、関連部局と駐車場整備も含め検討する。また、老朽化した施設を長寿命化計画に基づき改築・更新を行うとともに、施設の再整備についてPFIの活用を検討する。 ② 対住民関係 ： 引き続き補償・用地交渉を進める。 ③ 執行体制等 ： 現在の組織体制で執行は可能である。
9 対応方針	■ ① 事業継続（現計画） □ ② 事業継続（見直し） □ ③ 事業の中止
10 その他（前再評価での主な意見等）	・自転車競技場の移設まで時間を要するのであれば、その間に駐車場の代替施設を検討する必要がある。 ・年間の来園者数については、季節ごとや場所ごと等詳細なデータがあると有効活用できると思うので、今後検討していただきたい。

＊ 1事業概要の上段（ ）は前再評価時点の計画